

令和4年度 恵庭市アイヌ施策推進委員会における KPI の達成状況にかかわる評価結果

令和4年度に恵庭市アイヌ施策推進委員会（委員は内田委員、山田委員、藤原委員、北田委員、佐々木委員の計5名）を3度開催しました。

令和4年度の恵庭市アイヌ施策推進地域計画のKPIはアイヌ文化マスター育成事業における中高生の参加人数で、目標値は6人で実績値も6人でした。

令和4年9月28日（水）に行った第2回委員会と令和5年3月23日（木）に行った第3回委員会において、KPIの達成状況に係る評価を行いました。

委員の評価と事務局の回答は以下のとおりです。

A委員： アイヌ文化マスター育成事業の参加人数が増えてきたとのことに幾分かの期待ができそうです。この件についてはもう少し学校への取り組みを強化していく必要があります。海外研修が難しいのであれば、国内の施設（国立民族学博物館・国立歴史民俗博物館）、市立函館民族資料館など他の地域の施設での研修等について考えていく必要もあります。

B委員： 来年度のアイヌ文化マスター育成事業ですが、多くの子どもたちが募集してくれることを願っています。

事務局： アイヌ文化マスター育成事業への募集における市内中学校・高校生への参加を促す取り組みについてですが、最低限生徒一人ひとりへの募集要項の配布を行い、さらなる強化についてもどのような方法があるか引き続き検討して参ります。研修先についても海外は難しいようなので、道内外でアイヌ文化や民族共生・多民族文化を学べる施設の視察・学習を検討して参ります。

C委員： 来年度以降もアイヌ文化マスター育成事業に募集する子どもたちが増えるように努力していただきたいと思います。またコロナもおさまってきたので、令和6年度以降は海外研修もぜひ企画して下さい。若いうちに海外を見ることは非常に重要なことだと思います。若いうちに海外に行くことで視野が圧倒的に広がります。中学生や高校生のうちに海外へ行く、外の世界を見ることは、その子たちもそうですが、地域の、恵庭市の財産となります。人材育成だと思っていただければ良いと思います。子どもたちは海外へ行くと大きく変わって帰ってきます。アイヌ文化というだけではなく、恵庭市が子どもたちの人材育成を考えるのなら、そういった機会をどんどん増やしてほしい。アイヌ文化に限らず。子どもたちに外の世界、いろいろな世界を見せる事業をやった方が良いと思います。

<事務局> 市の中でアイヌ文化を学ぶのは国内で十分ではないかという意見もございませぬので、十分検討して参ります。

D委員： 子どもたちがアイヌ文化を学ぶことは非常に重要ですが、それだけではなく目的が人材育成や国際交流ということも含めれば広く複合的な目的となり、違った目線で話ができるのではないかと思います。

<事務局> 子どもたちを海外に派遣することはアイヌ文化の学習以外に民族共生、人材育成や国際交流といった面からも重要と考えますので、十分検討して参ります。